

## 脳・神経系統以外による身体性機能障害にかかる障害診断書

氏名		男・女	生年月日	昭和・平成	年	月	日
障害名(現在起こっている障害、例えば「上肢・下肢・指等の機能障害」等の部位を明記してください。)							
原因となった疾病・外傷名							
交通事故・労災 / その他事故 / 疾病 / 先天性 / その他 ( )							
疾病・外傷発生年月日 年 月 日 場所							
参考となる経過・現症 (画像診断及び検査所見を含む。)							
<p>【必須記入事項】 障害が治ったかどうか</p> <p><input type="checkbox"/> 障害が治っている . . . 治った日 (※) 年 月 日</p> <p><input type="checkbox"/> 障害が治っていない</p> <p>※ 「治った」とは、傷病に対する療養が終了しており、かつ、障害の症状が固定している状態を意味します。</p>							
総合所見 (傷病の発生から現状に至る経過及び現症、症状の固定又は永続性の状態を記載してください。)							
その他参考となる合併症状							

上記のとおり診断する

診断年月日 年 月 日  
本診断書発行日 年 月 日

病院、診療所若しくは介護  
老人保健施設等の名称及び  
所在地又は医師の住所

(氏名) 医師名

印

氏名		男・女	生年月日	昭和・平成	年	月	日
----	--	-----	------	-------	---	---	---

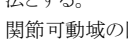
関節可動域(ROM)と筋力テスト(MMT)

(この表は必要な部分を記入)

筋力テスト( ) 関節可動域 筋力テスト( ) 関節可動域 筋力テスト( )

↓	↓	↓	↓
180 150 120 90 60 30 0 30 60 90	90 60 30 0 30 60 90 120 150 180	90 60 30 0 30 60 90 120 150 180	90 60 30 0 30 60 90 120 150 180
( ) 前屈 ( ) 左回旋	後屈( ) 右回旋( )	頸	( ) 左屈 右屈( )
( ) 前屈 ( ) 左回旋	後屈( ) 右回旋( )	体幹	( ) 左屈 右屈( )
(右)	180 150 120 90 60 30 0 30 60 90	90 60 30 0 30 60 90 120 150 180	(左)
( ) 屈曲 ( ) 外転 ( ) 外旋	伸展( ) 内転( ) 内旋( )	肩	( ) 伸展 ( ) 内転 ( ) 内旋
( ) 屈曲 ( ) 回外 ( ) 掌屈	伸展( ) 回内( ) 背屈( )	肘 前腕 手	( ) 伸展 ( ) 回内 ( ) 背屈
( ) 橈側外転 ( ) 掌側外転	尺側内転( ) 掌側内転( )	母指	( ) 尺側内転 ( ) 掌側内転
( ) 屈曲 ( ) 屈曲 ( ) 屈曲 ( ) 屈曲 ( ) 屈曲	伸展( ) 伸展( ) 伸展( ) 伸展( ) 伸展( )	中手指節(MIP)	( ) 伸展 ( ) 伸展 ( ) 伸展 ( ) 伸展 ( ) 伸展
( ) 屈曲 ( ) 屈曲 ( ) 屈曲 ( ) 屈曲 ( ) 屈曲	伸展( ) 伸展( ) 伸展( ) 伸展( ) 伸展( )	近位指節(PIP)	( ) 伸展 ( ) 伸展 ( ) 伸展 ( ) 伸展 ( ) 伸展
( ) 屈曲 ( ) 外転 ( ) 外旋	伸展( ) 内転( ) 内旋( )	股	( ) 伸展 ( ) 内転 ( ) 内旋
( ) 屈曲 ( ) 底屈	伸展( ) 背屈( )	膝 足	( ) 伸展 ( ) 背屈

備考

- 1 関節可動域は、他動的可動域を原則とする。
- 2 関節可動域は、基本肢位を0度とする日本整形外科学会、日本リハビリテーション医学会の指定する表示法とする。
- 3 関節可動域の図示は、 のように両端に太線をひき、その間を矢印で結ぶ。強直の場合は、強直肢位に波線(〰)を引く。
- 4 筋力については、表( )内に×△○印を記入する。  
×印は、筋力が消失又は著減(筋力0、1、2該当)  
△印は、筋力半減(筋力3該当)  
○印は、筋力正常又はやや減(筋力4、5該当)

- 5 (PIP)の項母指は(IP)関節を指す。
- 6 DIPその他手指の対立内外転等の表示は必要に応じ備考欄を用いる
- 7 図中ぬりつぶした部分は、参考的正常範囲外の部分で、反張膝等の異常可動はこの部分にはみ出し記入となる。

例示



- 8 記載のない事項は正常と判断する。